はとほーむ

村山苑

第 49 号

目次

１、新年度に向けて

２、お花見・参加された方の感想

３、ひな祭り・法人研修発表「内出血の予防と減少」

４、ホームページリニューアルのお知らせとご案内

平成三十年度を迎えて

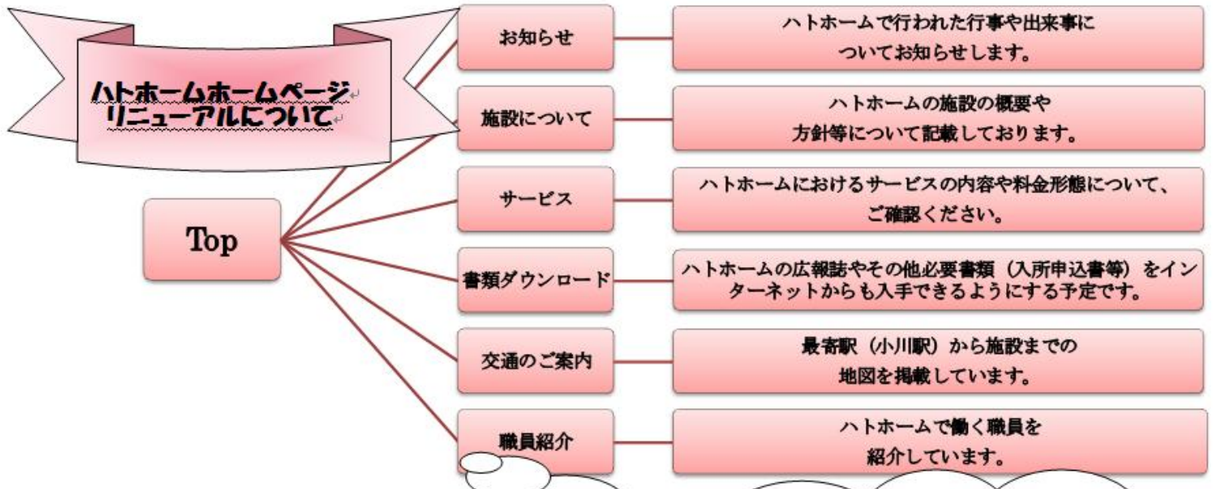
施設長　畠山千春

今年は、医療保険の診療報酬と、介護保険の介護報酬の同時改定の年でした。財務省は、マイナス改定を主張していましたが、診療報酬本体０．５５％、介護報酬は０．５４％のプラス改定でした。プラスと言っても、経営に貢献するほどではありませんが、介護報酬引き下げに対する批判や、反対署名の成果と言えるのではないかと思っています。

ＤＡＹＳＪＡＰＡＮ４月号に「死に場所がなくなる日」と言うショッキングなタイトルの特集記事が載っています。「膨張する福祉予算を削減するため、安倍政権は病院のベッド数の削減を決めた。もう病院で死ぬことは贅沢な時代になる」とあります。このことは、在宅での「看取り」、特別養護老人ホームでの「看取り」に繋がります。昨年一年かけて看取りの体制整備を行いました。出来るだけ早く医師を確保し、入居者・ご家族のご希望に沿えるようにしたいと考えています。

ハトホーム南館の解体、新施設の建設、北館大規模改修についてですが、工事規模、工事費用どれをとっても大規模であり、法人一体となって準備を進めています。７月に、東京都の計画書や補助協議書を提出する予定です。工事に伴い、来年６月に約半数の入居者の方に、清瀬市の代替施設にお引っ越し頂く予定です。基本設計も大詰めを迎えています。

今年も慌ただしい一年になりそうですが、入居者の安心・安全には十分配慮してまいりますので、よろしくお願いします。



ハトホームのホームページをリニューアルしました。

ハトホームの施設カラーは、「ピンク」との事でピンクを多く使った配色となっています。明るいホームページに生まれ変わったように感じています。

ホームページの内容も構成を整理したり、施設内図面や地図を取り入れたりと、工夫をしました。これからもより一層充実したホームページとなるように、努めてまいりますが、なにかご意見、アドバイス等あれば、お知らせください。

よろしくお願いいたします。　　事務　北村

● 私たちと一緒に働いていただける方を募集しています。

介護職・看護師

食事のお手伝い（資格不問）

お気軽に是非ご連絡ください。

☎042-393-8496（本部採用担当まで）

● ギャラリースペースのご案内

ハトホーム１階のギャラリースペースでは、地域の方々の絵や写真などの作品を展示させていただいております。

作品展示についてのお問い合わせは下記まで。

☎042-393-7574（担当者まで）

本文デザイン　ハトホーム広報委員

発　行　社会福祉法人　村山苑

特別養護老人ホーム　ハトホーム

〒１８９－００２４　東村山市富士見町２丁目７番５号

TEL　０４２－３９３－７５７４

E-mail　hatohome@murayamaen.or.jp

発行人　畠山　千春

編　集　ハトホーム広報委員会　　2018 年 4 月末日　発行

※ホームページも更新しています。https://www.murayamaen.or.jp/hatohome/

※個人情報保護法に基づき、本人承諾のうえ、写真・作品を掲載しています。

ひなまつり

今年も、事務所前のホールに大きな雛壇を飾り、女性の入居者の方々と写真を撮りました。「大きいお雛様ね」と笑顔で仰る方、おやつの時間に出た甘酒を、「普通のお酒が欲しいとこだけど、甘酒も美味しいね」と仰りながら、甘酒を飲まれる方等、女性も男性も、この行事を楽しまれていました。

お花見

桜の花が身頃を迎えたため入居者の皆さんとお花見をしました。ハトホーム玄関前のグランドや近隣の学校にたくさんの桜や春の花が咲いており、皆さん毎年楽しみにしています

いいお天気の中

見る桜は最高！

桜もいいけど

菜の花も綺麗ね♪

法人研修発表

湯田よし江　桑木孝子

一月二十三日に「村山苑福祉サービス研究研修」が行われました。各施設の職員が一同に集まり、研究の成果を発表します。

ハトホーム南館では「事故防止への取り組み」を主題にし、「内出血の予防と減少」を目指し研究を行いました。

よろけた入居者の方を支えようと腕を掴んだだけで出来る内出血、着替えの際に着衣が擦れただけで傷が出来るなど、高齢者の皮膚は加齢に伴い、皮膚の弾力や皮下脂肪が減り衝撃を受けやすく、血管も脆くなり破れやすいため、少しの衝撃でも内出血や傷が出来やすくなっています。

日常生活の中で入居者の方が、どこかにぶつけたりされ、自覚のないまま内出血や傷が発見され、原因がはっきりと判明しないこともあります。原因が判明することにより、その人にあった適切な介助を行うことで、大きな事故を未然に防ぐと共に内出血の予防や減少が期待できると思われます。

実際に南館ではアンケートを実施し職員の意識を確認、入浴・排泄介助の提供方法の見直し、フロア内での勉強会の実施、事故の対応策をミーティングで検討することになりました。対応策をミーティングで検討することによって様々なアイデアが出ると同時に職員同士の情報共有もし易くなり、原因不明の外傷の減少・予防に期待が持てるようになりました。

また、勉強会等の実施を今後も続けていきたいといった意見も聞かれ、知識・技術の向上に前向きに取り組む意識が芽生え、入居者の皆さんにより良い介助の提供ができるよう今後もこの活動をつづけていきたいと思います。